

どう撮り，何を作成する？ 手術支援に役立つ 3次元CT画像

監修：吉岡 正一（済生会熊本病院 副院長，呼吸器外科上席部長）

編集：重松 良典（済生会熊本病院 中央放射線部 部長）

沖川 隆志（済生会熊本病院 中央放射線部 技師長）

奥村 秀一郎（済生会熊本病院 中央放射線部 係長）



B5 変型判・256 頁・オールカラー・イラスト 60 点，写真 656 点・ストリーミング動画視聴権付き

定価 6,380 円（本体 5,800 円＋税 10%） 2022 年 1 月 メジカルビュー社刊 ISBN978-4-7583-2054-2

評者 平井 俊範（熊本大学大学院生命科学研究部放射線診断学講座）

済生会熊本病院の放射線部関係者のご執筆による待望の『手術支援に役立つ 3次元 CT 画像』が刊行された。3次元画像診断に関する参考書は数多く存在するが，本書はこれまでの他書とは異なる視点で記載されている。まず，本書は臨床にすぐに役立つ CT 撮像法と 3次元作成マニュアルが満載されている実用書である。ここには済生会熊本病院の放射線部で培われてきた，治療に携わる医師からの要望に応えるための診療放射線技師からみたエッセンスが詰まっている。また，カラー画像，表やシェーマを多く用いてわかりやすく図解されている。それから，実際の現場に必要な 3次元画像の作成手順がフローチャートやポイントを用いて提示されている。そのほか，全身臓器を 5つのパートに分けて，解剖や疾患別に丁寧に 3次元画像作成の極意が解説されている。このように簡潔に実臨床にすぐに役立つ内容を初学者でも容易に理解できるように工夫されている本は見当たらない。

現代の医療は，内視鏡，カテーテル，ロボットを用いた低侵襲治療が求められているが，その高度な治療を安全に行うためには，術前の正

確な 3次元情報は必須である。本書は，術者の視点を想定し，どのような 3次元 CT 画像をどのような角度で作成すればよいか，そのためにはどういう画像を撮影しておく必要があるかを解説している。済生会熊本病院の治療担当医師，放射線診断医，診療放射線技師が長年培ってきたディスカッションに裏打ちされたノウハウが満載され，その臨場感も伝わってくるのではないであろうか。

編集者の一人である済生会熊本病院の重松放射線部長は熊本大学放射線医学教室での私の後輩であり，診療や研究に熱心な先生で，この本にも彼の熱意が感じられる。本書は済生会熊本病院の放射線部および治療担当医師の中で蓄えられた 3次元 CT 画像の豊富な知識と経験が盛り込まれ，完成度の高い実用書である。臨床現場で出会う疾患を網羅しており，診療放射線技師だけでなく，画像診断に関心を持つ放射線科医師や治療に携わる外科や内科の医師にも役立つことは間違いない。是非，本書を参照いただき，多くの皆様に 3次元 CT 画像を診療のお役に立てていただくことを期待したい。